

お互いを知ることから導く合理的配慮

～タクシー事業者研修の事例から～



明石市政策局インクルーシブ推進室
山田 賢

大切にしたところ

- 複数の当事者の参加

→ 多様なニーズに直接触れることで個別性を実感

- ディスカッション形式

→ 直接会話することで伝わることもある



視覚障害について理解する研修(2017.9)

- 視覚障害者からのお話
- ワークショップ①:お釣りの渡し方
- ワークショップ②:車内での情景説明
- ワンポイント講義:降車時のご案内
- グループディスカッション





のべ15名の視覚障害者が参加
(1日目7人/2日目8人)

車いす利用者との交流研修(2019.2)

- 車いすユーザーからのお話
- 移乗のデモンストレーション
- ワークショップ:車いすからの移乗体験
- 「心のバリアフリー」DVD視聴
- グループディスカッション





のべ24名の車いすユーザーが参加
(1日目12人/2日目12人)

◆情報を伝えることの大切さを
知った。同僚たちにも伝えたい
(ドライバー)

◆できること、できないことは、
個人やその日の体調によって
違う。必要なことを言いやすい
雰囲気があれば嬉しい
(車いす利用者)

参加者の声



◆行き先の伝え方など、こちら
側も意識したい(視覚障害者)

◆体の不自由な方を乗せる機会
は多い。毎回その人の状態を
聞くようにしないといけない
と思った(ドライバー)

行政に求められる役割

ニーズに応じて提案できるコーディネーター役

